

鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者委員会

日時	令和元年 10 月 15 日（火）10 時 00 分から 12 時 00 分
場所	市役所 3 階 庁議室
出席者	委員 13 人 坪水徳郎、下小野田寛、吉松正信（代理出席）、有村智明（代理出席）、橋口浩二郎、是則知広（代理出席）、藤崎和彦、内野匡章、北郷奏美、落司ひとみ、宮下昭廣、宮下恵子、隈崎和代

■主な質疑等

発言者	内容
	<p>1 やってみたい仕事ができるまちへ</p> <p>質疑なし</p>
<p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p>	<p>2 いつでも訪れやすいまちへ</p> <p>○スポーツ合宿が増えている要因は何か。 ⇒串良平和野球場を改修したことにより、野球チームの利用が増えたことが要因であると考えている。</p> <p>○平和学習ガイドの案内人数が未達成となっている要因は何か。 ⇒修学旅行生の減少が主な要因である。</p> <p>○ユクサおおすすめ海の学校のように学校跡地活用を進め、さらに人を呼び込む計画はないか。 ⇒人が集まる交流施設として活用できるよう、全庁的に検討を進めたい。</p> <p>○空き家バンクの登録数はいくつか。 ⇒現在 34 件を登録している。</p>
<p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p> <p>委員 事務局</p>	<p>3 子育てしやすいまちへ</p> <p>○経済的に困窮している家庭に対し、制服等を支給する支援はあるのか。 ⇒生活保護世帯や準要保護世帯へは、修学援助として支援を行っている。漏れが無いよう学校と連携するとともに、様々な機会を通じて周知したい。</p> <p>○学力向上について、根本的な解決策はあるか。 ⇒今年度から鹿屋小及び鹿屋中を県総合教育センター指定の強化校に位置付け、大隅地域で教員の研修を行えるようにした。教員のスキルを上げることで学力向上につなげていきたい。</p> <p>○幼保無償化について、市独自の措置はないか。 ⇒幼保無償化について、市独自の措置は講じていないが、これまでインフルエンザ予防接種の対象拡大や国保の多子世帯で保険料を一部減免する対策を行っている。様々な施策を通じて少子化対策に取り組んでいきたい。</p>

<p>委員 事務局</p>	<p>○保育士が不足している状況について考えはあるか。 ⇒引き続きマッチング事業を活用し、保育士の確保に取り組んでいきたい。また、年々保育の申込数が減少してきていることを踏まえ、保育所等の定員数の在り方について協議したい。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>○市内に大学を誘致する計画はないか。 ⇒少子化の中で地方に大学を誘致するのは難しい。都市部に転出した子供たちが、鹿屋に帰ってくるような施策を行う必要がある。</p>
<p>委員 事務局 委員 事務局 委員 事務局</p>	<p>4 未来につながる住みよいまちへ</p> <p>○空港と鹿屋市を結ぶバスについて、高速道路を利用する便が少ない。 ⇒要望を踏まえて、協議したい。</p> <p>○今般の台風 19 号の被害を踏まえて、計画の見直しはあったか。 ⇒国の検証結果を踏まえ、浸水被害が起きないようにハード整備を国に要望していきたい。</p> <p>○くるりんバスは市を越えて広域で運用できるか。 ⇒くるりんバスはコミュニティバスの位置付けであるため難しい。</p>
<p>委員 事務局 委員 事務局 委員 事務局</p>	<p>5 その他</p> <p>○外国人技能実習生が再び鹿屋市に帰ってきたくるように、外国人の夏祭りへの参加など、もっと国際交流に力を入れてよいのではないか。 ⇒民間の方々と連携しながら外国人の方と市民が交流できる機会をつくり、相互理解や共生を目指して取り組んでいく。</p> <p>○イベントの日程が重複しないように調整してほしい。 ⇒主催者間で連携し、相互に良い影響ができるよう努めたい。</p> <p>○看護専門学校の卒業生が鹿屋に残ってもらえるような取組があるか。 ⇒社会人枠で入学した者は、ほとんどが市内で就職している。また、卒業後に市外に出た学生も本市に帰ってきている傾向がある。卒業生を対象にUターン施策の一環として取り組んでいく。</p>